

## まとめ／総評

グループホーム アウル 宮崎直人

## 最近気になること／感じている事

その1

## 最近気になること

- 同じ雑誌を買う
  - 自分の唾液で誤嚥する
  - 口から出て来る言葉と言いたい言葉が違う
  - 『ん～ん～』と知らないうちに言っている
  - 予定を忘れている
  - 朝起きたら足腰の節々が痛い
  - 筋肉痛が遅れる
  - 涙もろくなった
- などなど

## なぜ、さわり・ふれるのか

- 失われていく世界とのつながり
- 失われていく自己
- 自分を探す旅

## 『認知症』の時代

- 「痴呆」という呼称が「認知症」という呼称に替わったこと自体は、ある意味社会的な前進であったと思いますが、痴呆の呼称が替わったからといって、その言葉(ばかげたことをする人)を使わなくなったというだけ、まだまだ社会的には「ばかげたことをする人あつかいしている」人はいると思います。(専門職も含めて)
- 本質は、未だ解決していないのが現状です。

認知症とは

生活の障害である

しかし、やはり認知症に伴う解決のヒントは

生活の営みの中にある

## 認知症の状態にある人へ 生活を支援するということは

- ①認知症と向き合う(中核となる症状を知る)
- ②人としての姿(点)を見極める(人となりを知る)
- ③点の見極めから線へ繋げる(生活の再構築)
- ④線から面(地域/社会)へと再び広げ繋げる

## 『介護』から『支援』へ新しい概念

介護  
↓

支援  
↓

『認知症の人』 → 『認知症』と『人』

認知症から入って人を捉える

認知症と人をそれぞれ捉える

## 認知症ケアからの脱皮

- 「認知症ケア」は「認知症」が先に来て、次に「ケア」が来る。
- 「認知症ケア」と考えるから、いつの間にか『人』がどこかに置いていかれ、思い出したように人をくっつけて『認知症の人』となる。
- 『認知症の人』ではなく、『認知症』と『人』とをそれぞれ捉えて考える。
- 「認知症の宮崎さん」と「宮崎さんが(に)認知症」では、その姿や捉え方に大きな違いがある。
- 「認知症は認知症」「人は人」で、それぞれしっかりと理解することである。

## 『人として』から『人となり』へ

人や周囲への気配りができる  
身だしなみを気にかけることができる  
自分の居場所をのを見つけ方がうまい  
自分の意志を示せる  
人をなごませられる(ユーモアがある)  
外出を楽しむことができる  
人を褒めることができる  
手伝おうとする  
好奇心が旺盛である  
楽しみにしていることがある

ライブ中島紀恵子と教え子たち「老年看護の縦横な語り」  
中島紀恵子、北川公子 クオリティケア『生活健康スケール』を参考

## 『人となり』

『人となり』をどのように見出せるのかということ  
を解れば、『認知症』に右往左往することなく、差  
別感情に左右されず敬意あるまたは尊厳ある態  
度と対話もできやすくなる。

ライブ中島紀恵子と教え子たち「老年看護の縦横な語り」  
中島紀恵子、北川公子 クオリティケア より

## 人の姿と認知症

- 姿の捉え方からスタート  
どんな姿かと思っているかがその後の関わりや支援(介護・ケア)に影響する

視点(姿の捉え方)は認識を創造し  
認識は経験を創造する

『生きること支援が私たちの仕事です』

アウル

『最後まで人となりを大切に生きていけるように！』

アウル

実践提言 『認知症』と『人』の支援  
5つの尊厳と3つの原則

**5つの尊厳**

- 食の尊厳
- 移動の尊厳
- 排泄の尊厳
- 住の尊厳
- 死の尊厳

**3つの原則**

- 主体性の原則
- 選択性の原則
- 関係性の原則

## ご清聴を感謝いたします ありがとうございました

- ご質問などがございましたら、下記へご連絡下さい。

〒052-0014

北海道伊達市舟岡町337-1

グループホーム アウル

Tel 0142-21-1680

Fax 0142-21-1682

〒059-0026

北海道登別市若山町3丁目8番地45

グループホーム アウル登別館

Tel 0143-88-3335

Fax 0143-88-3336

〒052-0014

北海道伊達市舟岡町340-14

デイサービスセンター アウル

Tel 0142-21-1150

Fax 0142-21-1160

総合施設長 宮崎直人

メールアドレス: [owl0907@aioros.ocn.ne.jp](mailto:owl0907@aioros.ocn.ne.jp)

ホームページ: <http://www.gh-owl.com/>